

ウチの図書館お宝紹介! (第76回) 和光大学附属梅根 記念図書館 展示会カタログの収集と提供--美術館 の展覧会図録, 画廊の展覧会リーフレット, MoMA コ レクション

著者	荒谷 宏美
雑誌名	図書館雑誌
巻	102
号	9
ページ	660-661
発行年	2008-09
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00001813/

うちの図書館 お宝紹介！



第76回
和光大学附属
梅根記念図書館

展示会カタログの収集と提供 —美術館の展覧会図録、 画廊の展覧会リーフレット、 MoMAコレクション—

荒谷宏美

和光大学附属梅根記念図書館は、東京都町田市にある中規模の私立大学の附属図書館です。蔵書数は約44万冊で、学生約3,400人と教職員約170人をサービス対象としています。

開学当初から芸術学科を擁していることもあり、芸術関連資料については従来から一定程度カバーしてきていたわけですが、特色あるコレクションとして展覧会図録を収集・提供し始めたのは2004年度からです。

展覧会図録は一般的な出版流通ルートでは扱えないうえ、会期が終わってしまっても各美術館の在庫が尽きるとそれきりになってしまうことが多いので、入手においてはそれなりの努力が必要ですが、展覧会の貴重な記録であると同時にその美術館やキュレーターの研究成果としての側面もあり、一般的な美術研究書とはまた違った趣きと役割があります。

<展覧会リーフレットの収集・提供>

ことのきっかけは、主に現代美術に関する展覧会リーフレット（ページ数が極少もしくはシート状などの展覧会図録を、一般的な“展覧会図録”と識別するためにこの文章では仮にそう呼ぶこととします）が本学教員より約4,000冊も寄贈されたことでした。

まず業務をイメージするために、そのような資料を整理・提供されている他の機関（東京国立文化財研究所、国立近代美術館、国立西洋美術館、東京都現代美術館）を見学させていただくことから始めました。貸出サービスを行っているところはありませんでしたが、パンフレットボックスを用いた保管の仕方やシートもののファイリングなど、多く

を参考にさせていただきました。

資料提供にあたっては、①開架で②貸出可能で③それぞれの主題、アーティスト（当館は現代

アート、彫刻、絵画、版画に関する分類について作家ごとの著者記号制を採用しています）に分類して一般的な資料と区別しないことをポリシーとし、貴重資料の公開を実現するだけでなく利用者の利便性をも追求していくこととしました。

この雑誌の読者の方にはお察しいただけると思いますが、図書の形状ではない資料を一般資料と同じように開架で管理するということは実にさまざまな努力と工夫が求められます。なにしろ参照流用できるような MARC がありませんから書誌データを一から起こすだけでも相当な労力が必要ですが、画廊などにおける展覧会はこのような形でしか記録が残っていないことがほとんどですし、作家によっては唯一のまとまった情報源となるケースも少なくなく、“1950年代から90年代の現代アートの姿を追体験するひとつのツール¹⁾”として少しはお役に立てるのではないかと思います。

<展覧会図録の収集・提供>

2006年度からは美術館の展覧会図録の収集に着手しました。全国の美術館・博物館から約70館を



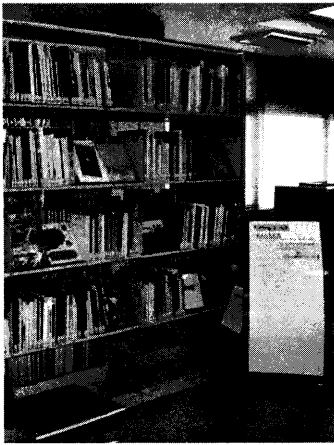
選択し、毎年予算と業務量を鑑みながら1件ずつ問い合わせをして購入していくという非常に地道なやり方で、現在約30館への問い合わせを完了しています。美術大学や美術館の図書館は自機関が発行する展覧会図録を相互に寄贈しあう形で自然に手元に集まってくると聞いたことがあり、少しうらやましく感じることもありますが、「展覧会図録を収集しています!」と図々しく言い続けているからでしょうか、「教育研究目的で使ってくれるのであれば」とご恵贈くださる美術館や、個人の収集家の方が所蔵品をまとめて寄贈してくださるケースも多くなってきており、展覧会図録と展覧会リーフレットの合計所蔵冊数は現在約6,800冊にもなりました。とても細かいことですが、蔵書検索も「展覧会カタログ」だけに限定して検索できるように改良し、コレクションを有効に利用していただける一助となっています。

<MoMA カタログコレクション>

2008年には、MoMA（ニューヨーク近代美術館、The Museum of Modern Art, New York）による展覧会、アート研究書、年報類など約450件のコレクションを公開しました。

MoMA は1929年に3人の女性によって開設され、世界のアート界をリードしてきた美術館です。

それまでの美術館は19世紀以前の美術を対象とした収蔵品が中心でしたが、MoMA は20世



紀以降、つまり同時代のアートを対象とし、それがいわゆる近代美術館のはじまりでもありました。その活動ジャンルは、美術・デザイン・写真・映画・建築と幅広く、同時代をヴィジュアルに捉え、その試みは今も実践されています。

MoMA の刊行物についてまとめて所蔵している機関はほかにも存在していると聞いていますが、これほどの規模のものが開架で公開され、直接手にとって利用できるのは、国内では当館だけ

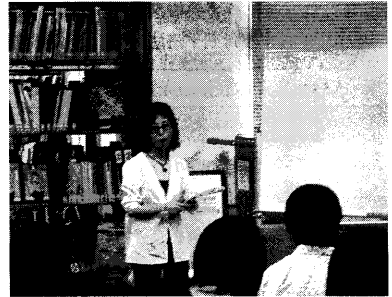
だそうです。

今のところ1930年代から1980年代のものを中心に収蔵していますが、今後は最近のものについても少しずつ収集していく予定です。

●WoMA (MoMA コレクション公開記念講座) の開催

2008年6月には、MoMA コレクションの誕生を記念した講座を開きました。

WoMA という語には首をかしげる方もいると思いますが「和光(Wako)における MoMA」とい



う意の造語で（当事者はいたって本気です）、本学で開講されている博物館学関連の授業とのジョイント企画として実施しました。講師には、現役の学芸員である授業担当教員と、MoMA や近代美術に造詣の深い教員の2名をお招きし、約40名の参加がありました。

会場はMoMA コレクションの目の前。その資料群を直接目にしながら、MoMA の歴史についての説明や、展覧会を企画運営する現場からのカタログ制作についての講演を聞くことができ、なんとも豊かなひとときでした。

<終わりに>

今回ご紹介したコレクションは、それ自体に強烈なオリジナリティがあるというわけではありませんが、その提供の仕方—利用者—に実際にさわって理解を深めてもらって、コレクション自体が大学や社会の中で生き生きと根づいていく—を含めて当館の役割や独自性を感じ取っていただければ幸いです。一般の方も、居住地域などにかかわらずご利用いただけますので、関心のある方はぜひお立ち寄りください。

注：

- 1) 三上豊「和光大学図書館の美術展カタログ」あいだの会『月刊あいだ』125号、2006年5月、p.11

(あらたに ひろみ：和光大学附属梅根記念図書館)

[NDC9：090

BSH：1.図書館資料 2.和光大学附属梅根記念図書館]